

第 63 回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成 26 年度春期第 63 回日本歯科理工学会学術講演会が、4 月 12、13 日の両日、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科先端材料評価学分野教授、宇尾基弘先生を大会長として、東京都江戸川区タワーホール船堀において開催されました。本大会における一般講演の演題数は、口頭発表が 26 演題、ポスター発表が 54 演題の計 80 演題でした。また、Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーを兼ねた特別講演と、企業展示が開催されました。

今大会の開催地である東京は、一週間前より晴天が続く、大会当日の日中は汗ばむような初夏の陽気のなか、学術講演会はスタートしました。

大会初日の口頭発表では、細胞、毒性、セメント、金属をテーマとした 12 演題の講演が行われました。ポスター発表では、3 演題の研究奨励賞応募講演と、ジルコニア、加工、成形、試験法、インプラント、光触媒、レジン、コンポジットレジンをテーマとした 24 演題の一般講演の計 27 演題の講演が行われました。研究奨励賞応募の発表はもとより、口頭発表・ポスター発表ともに熱心な質疑応答が行われました。

今大会における特別講演は「口腔粘膜アレルギー up to date」との題目で、口腔粘膜のアレルギー性病変、口腔アレルギー症候群、口腔扁平苔癬などについて、日本大学歯学部病理学講座教授の小宮山一雄先生が講演を行いました。病理学と理工学はお互いに接点の少ない分野

ですが、今回の講演内容は金属アレルギーや各種修復物の粘膜への影響など、口腔内に設置した金属・レジン修復物および軟質裏装材などから溶出する金属イオンやレジンモノマー、添加剤など材料学的視点からの検討が以前より強く必要とされている領域であり、臨床と基礎との融合の意味でも、大変有意義な講演でした。

大会 2 日目の口頭発表では、リン酸カルシウム、器械、技術、レジン、ジルコニア、臨床応用に関する 14 演題の講演が行われました。ポスター発表では、接着、金属、セメント、細胞、毒性、臨床応用をテーマとした 27 演題の講演が行われました。口頭発表、ポスター発表会場には多数の来場者が見受けられ、活発な質疑応答が初日と同様に行われました。

近年、発表演題数の減少が危惧されていましたが、今大会長・準備委員長および歯科理工学会員の方々の御尽力により減少も止まりました。また、海外からの一般講演のエントリーが 6 演題、国内からも留学生の一般講演が 4 演題ありました。平成 24 年 12 月に日本歯科理工学会が法人化して 1 年が過ぎましたが、法人としての新たな学会の可能性と活性化および国際化を肌で感じる事ができました。

本学術講演会は、宇尾基弘大会長、本郷敏雄準備委員長をはじめ、多数の運営スタッフの御尽力により、今大会はつつがなく進行し、盛況の内に終了しました。

本大会の運営に携わったすべての方々へ感謝を申し上げます。第 63 回日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

平田伊佐雄

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院生体材料学)

